

平成25年度寄附講座開講報告

平成23年度から継続して実施されている寄附講座が、今年度も4月10日（水）に名城大学天白キャンパスで開講した。毎週水曜日の2時限目に、愛知会の会員が大学生に講義を行う。



講師の紹介

開講日となったこの日は、冒頭、講師陣の紹介がされた。寄附講座運営委員会の講師募集に応募した新たな講師も加わり、7月10日（水）までの全14講を担当する。各講の講義内容と担当講師は別表の通り。

さて、いよいよ早川正敏副会長による第1講が始まると、まず前半ではガイダンスがおこなわれた。この講座で目指すところは、これまで大学で学んできた法律が、土地家屋調査士の業務の中で、どのような形で活かされてくるのかを理解してもらうことにある。そのことを通じて、土地家屋調査士の仕事に関心



第1講師の早川正敏副会長

を持ってもらい、将来の職業選択の参考にもしてもらおうとするものである。

またこの講座は、大学の正式な講義としてカリキュラムに組み込まれており、履修した学生には単位が付与される。そのため、出欠は厳しくチェックされ、全講義終了後にはレポート提出が課せられている。受講生には、それらの注意事項についても説明がされた。

第1講の後半は、表示の登記についての総論の講義がされた。学生にとって馴染みのない「表示の登記」について、物権法に照らしながら不動産登記制度におけるその役割について、早川講師により熱のこもった講義がなされた。講義の終盤には、早川講師の刑務官時代の話も飛び出し、さまざまな経歴の持ち主が土地家屋調査士として活躍していることに、受講生は大変興味深そうに聞き入っていた。



登記事項証明書の説明をする早川講師

ところで、過去2年の寄附講座の受講生の中からは、実際に土地家屋調査士を目指す者も現れている。また、資格業ガイダンスやインターンシップを積極的に活用する学生も増えてきている。これらの活動が地道に継続されることによって、1人でも多くの若者が土地家屋調査士のファンとなってくれることを願っている。

（広報部理事 齊藤直人）

平成25年度「名城大学寄附講座」 講義内容と担当講師

回数	日程	講義内容	担当講師
1	4月10日	ガイダンス／表示の登記	早川正敏
2	4月17日	表示の登記に関する調査／建物に関する表示の登記	神谷文彦
3	4月24日	建物に関する表示の登記（区分建物）	武下文之祐
4	5月1日	土地に関する表示の登記	小島篤実
5	5月8日	測量に関する理論と実務1	赤川美咲
6	5月15日	測量に関する理論と実務2	水野晃子
7	5月22日	境界に関する理論と実務	榎下幹生
8	5月29日	土地家屋調査士の司法参加	高津行弘
9	6月5日	土地家屋調査士と地籍調査	夏目善之
10	6月12日	筆界特定制度と境界ADR	清水 繁
11	6月19日	表示に関する登記実務の流れ（他法令との関連）	渡邊義太
12	6月26日	土地の境界立会に関する実務	河合信季
13	7月3日	公共嘱託登記と土地家屋調査士	近藤正行
14	7月10日	表示登記制度と土地家屋調査士	平川文洋